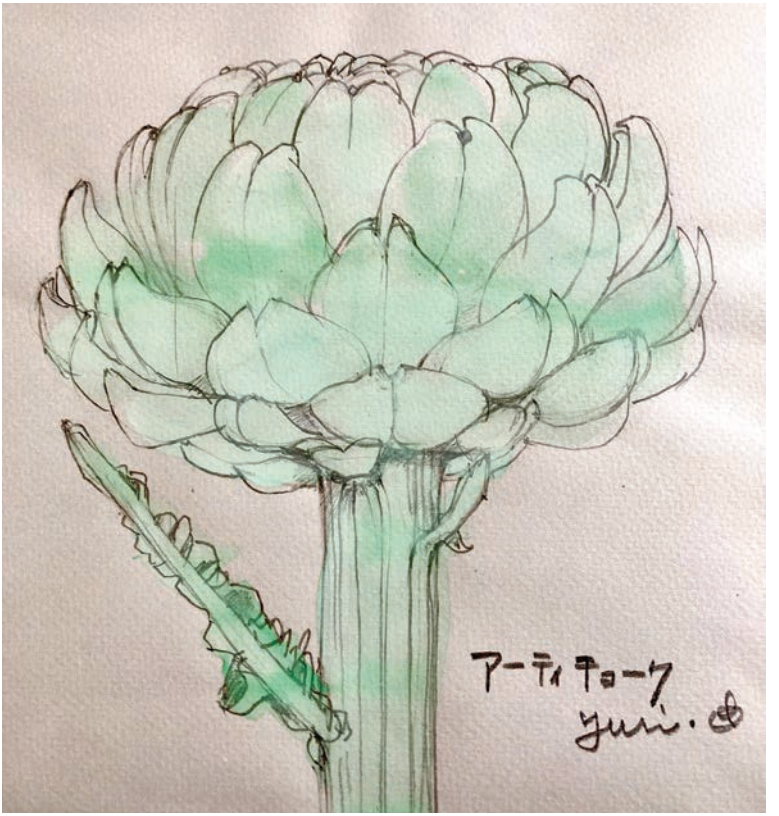
三河アララギ

２０２５年 令和７年６月 水無月（みなづき）

六　月　号

第 七十二 巻　　第 六 号



ニューヨーク日記（224）

http://blueshoe.copetin.com/

BlueCat, Shoe Lady

FUKUI DINOSAURS

Blue Shoe Diaries

日本に恐竜がいたなんて、しかも福井県がその舞台だったなんて、まったく知りませんでした。その頭の空白を埋めるべく、母と一緒に急きょ福井へ――東京から約4時間の旅。目的は福井県立恐竜博物館。そして、これがもう大迫力！本物のように動いて唸る恐竜たち、巨大な化石、まるで太古の世界に迷い込んだようなスケール感。うわぁ、人間って小さい！って思ってしまう感じで。しかも恐竜体験は博物館だけではなく。福井駅周辺でも、動く恐竜たちがそこかしこに登場していて、街全体がちょっとしたテーマパークのようでした。楽しくて、不思議で、みんなに勧めたい。

I knew almost nothing about dinosaurs in Japan, let alone anything about the Fukui region. So to fill in that blank, Mom and I took a spontaneous trip to Fukui's Dinosaur Museum, about four hours from Tokyo. And wow, was it worth it. Towering fossils, life-sized models that move and growl, and an immersive space that makes you feel like you've entered a prehistoric world. The dino experience doesn't end at the museum either—Fukui City itself has animatronic dinosaurs greeting you right outside the station. It's fun, surreal, and absolutely unforgettable.

目次

第七十二巻第六号（通巻八五八号）

表紙・アーティチョーク （ 1 ）
ニューヨーク日記(224) Blue Shoe（ 2 ）
歌集　わが冬葵 御津　磯夫（ 4 ）
歌集「草々」 今泉　米子（ 5 ）
ははきくさⅢ 大須賀寿恵（ 6 ）
三河アララギ歌集Ⅲ 夏目　勝弘（ 7 ）
『歌集　八千代』 岡本八千代（ 8 ）
三河アララギ歌集Ⅵ 弓谷　久子（10）
尊厳 今泉　由利（12）
曽孫 安藤　和代（14）
母の日 山口千恵子（16）
箱根 杉浦恵美子（18）
悩ましき 伊藤　忠男（20）
愉英雨 白井　信昭（22）
傘持たぬ 矢崎　直人（24）
『ことよせ』　いーはとぶ 水野　絹子（26）
牧原　規惠（26）
稲吉　友江（27）
鈴木美耶子（27）
牧原　正枝（28）
森　厚子（28）
大武　智子（29）
現代学生百人一首　東洋大学
中山渚々夏（30）
花輪ひなの（30）
春木　翔伍（30）
永井　滉子（30）
井上　愛心（31）
門田　七架（31）
丸山　賢人（31）
前田　智花（31）
植村　公女（32）
『俳句』
木村　歩歩（32）
今泉　如雲（32）
矢崎　直人（33）
今泉　由利（33）
川口カルチャー受講者自作自詠俳句集（34）
折々の詩（十六） ふじのけんじ（36）
五感を澄ませば(36) 杉浦恵美子（38）
附録（三十六） 矢崎　直人（40）
『よそ見しながら老いの坂』 中屋　保之（42）
『酔いの徒然』（158） 丸山酔宵子（44）
「花を咲かそう」「夕焼け空は茜色」 高橋　育郎（46）
絹の話（175） 今泉　雅勝（48）
「江上浩二の独り言」 江上　浩二（50）
初狩便り43 花野みぷり（52）
本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬 本田　勇気（54）
康鍼治療院 玄　翁　（56）
相模支部と花木園に遊ぶ 殿山　木風（58）
Circles of Time Atiya Hussain（60）
編集室だより 今泉　由利（62）
「三河アララギ」について （64）

歌集　わが冬葵

御津磯夫

疲労感はただちに悲しみに通はねど脈膊多し冬の夜の風

蘭草（ゐぐさ）青く匂ふ疊のわが精舎（しやうじや）今朝まだ佛も人も歩まず

越前の宿にならひし湯あみせり臥處に入りても匂ふ水仙

腰をまげて芥を拾ふ難ければ熊手に掻きて引ずりてゆく

かなしみを知らざりし少年の日は杳（とほ）し海邉に小さき砂山ありき

草のいのちさへさまざまに過ぎてゆく青きまま枯れし曼陀羅曼華（まんだらまんげ）

赤ひげ人は喚ぶとも老懶（らうらん）に足腰痛きわれは白ひげ

いつまでもつづく異常乾燥注意報朝々の雀のこゑもとほしも

はやばやと冬のもの厚くわれは着てわれより健（た）けき老い人を診る

黄葉すぎて枯れいろ白くほそりゆく鉢平らなるわが風知草

歌集「草々」

今泉米子

降り過ぐる時雨いくたび國こえて夕虹かかる金澤の驛

散りたまる朴の落葉のうらおもて踏みたる百歩湯桶の朝に

白雲の湯桶を下る朝のバス雨の日曜の人混み合へり

ひさご池の岸に傾き映らざる時雨にぬれし丸葉柊の花

北國の秋まだ早く鈴懸の黄葉の中につづる鈴の實

平らかに犀川の水流れつつあんずの碑の面石に打たれぬ

はるばると來つるは醫師會の旅行にて九谷も加賀の友禅も見ず

笠雲のまつはる伊吹夕映えて越しの時雨の旅終りたり

檜隈（ひのくま）の陵の杜の裾なして手入れとどける富有柿の畑

廻（めぐ）りゆく陵のみち乾きつつ秋の木の實のはぜて落つる音

はゝきくさⅢ

大須賀寿恵

杉の葉の散り敷く屋根をはるかに見て東照宮に詣でず降りむ

誰か置きてゆきしか杉の自然木杖に拾ひて降らむとする

腕時計はめたる位置に落ちつかず体重の減り侘びしむ今に

胃を切りて粥が常なる兄がまた山の畑の蜜柑剪りにゆく

屋敷畑鋤きゐるらしき鍬の音星の一つが光り初むる時刻

病欠印半休の印しばしばなりし今年最後の出勤簿を押す

わが家に風呂を立つるは久々にして木蓋の桧しきりに匂ふ

霜おきて青葉保てるブロッコリーわが足癒えむ今年の春は

あぐらかけば真似る子来たりこの夜は食卓の下に病む足伸ばす

新らしく槙垣に沿ふ盛土の今朝の霜柱踏みつつぞ行く

三河アララギ歌集Ⅲ

夏目勝弘

玄関の狭き土間には今日もわが家族三人の履物がある
一日が終りましたと宿直室に話しかくるごと独言いふ
インクもて引きたる線を越えられぬ糠子を愚と我には言へず
キリモミに散りくる春の竹の葉のなべては土に落つるにもあらず
平凡に夜となりたりサンゴジュの下の落葉に落葉する音
我の眼に見えたるものに闇もあり目覚めて再び眠るときのま
足下より己の影が黒々と伸びてゐたるは安らぐものよ
網戸にも映れるものあり軒下に干せるズボンの灰色の影
板の間に一つ落ちゐる黄の輪ゴム無限大といふ形を示し
ウインチに引き寄せらるる石のごと果敢無きものが我を惑はす

『歌集　八千代』

蒲郡　岡本八千代

瓶の底に大きくなりたる金魚一つ濃きオレンジに光りてをりぬ

金魚くれし人に伝言をけふはする金魚は金魚の色になりしを

われひとり入らむ風呂をわが焚きて焔高まる音を聞きをり

割当てられし教育論文の原稿三枚おもひもちつついつまでも書けず

よぶさんがくれし割烹着一枚にわれの二年の過ぎてゆきたり

白き表紙厚き一冊の「シュバイツァー」けふも置きたるままの位置にて

われの持ち来し日本歴史の一冊を誰かがけふは借りてゆきたり

また今年も教員異動の期の来て海越えて吹く風のはげしき

七人の女教師の中にいつしかわれは年長となりてしまひぬ

明日はまた女教師だけが集まりて講堂の垂れ幕縫ふ仕事あり

隣家の豚わめく声にめざめたり休み日けさは春となりつつ

わが校舎の蔭に一日かげりゐる小さき赤き屋根を見てゐる

蒲団干す家の見えつつ教室に女教師われの授業してゐる

ほめることも叱ることもなく半日の過ぎつつ生徒らと弁当食べをり

職員室のわれの席よりまむかひに三ヶ根山と低き山とが見ゆる

アララギ歌集Ⅵ

豊川弓谷久子

束の間を日照雨の止みて地上より空に立ちたり初冬の虹

今朝走るオリエント急行見むとして芒の土手に立ちて待ちをり

鰻など買はむと師走の町に出づ夫が戴きたる義援金もちて

カリカリと夫の手に今日音立つる最上川よりの胡桃の実二つ

田に沿へる用水路ここより曲りゐて一きは高しせせらぎの音

貝津丸山の我の畠は芽花の穂白き炎の如く風に靡ける

背のびして伸びたつ梅の枝を切る梅雨の晴間の空は明るし

我が掌より幼なの小さき掌の上に移したり蛍の青き光を

玉虫色の輝く編み糸細くして忽ち夏のセーターとなる

蒲公英の白き穂絮の並び立つ人住まぬ隣家の月光の庭

指先のかすかに青に染まりつつ藍染の糸にて夏服を編む

南部鉄の我が風鈴に雲のかげながるると書きて短冊を吊る

霧雨のまだ降りながら御津山の上より梅雨の空晴れてゆく

白き花の小さき父子草の一もとを残して夏草を引き終りたり

敦煌の辺りが産地かと思ひつつわれは編みをりトルファン綿を

尊厳

東京　今泉由利

90個の元素が地球をつくりしとその尊厳に浸りぬしばし

地球誕生四十八億年まえといふことの最古の化石といふをみている

温暖化と寒冷化を繰り返し地球に起きしことごとみつむ

恐竜の絶滅のこと新生代後期氷河期と福井県へ恐竜化石を見にゆかむ

いちはつの花咲き初むる白々と今日の気掛かりとぎれたり

大昔の巨大はちゅう類恐竜の化石を見にゆく福井県まで

こんなことこんなことの重なり合へり今日の日の私の歩巾

恐竜の絶滅のこと新生代後期氷河期の地球をのぞく

今生きる私の三十七兆個の細胞よエールをおくる元気でいてね

押入れを開けて出逢へりこの10年間してゐしことのありあり残る

ブラキロフォサウルスの実物ミイラ化石もあらむまみえむ

恐竜の時代に没入できるとぞ巨大恐竜心に入れて私の一歩一歩

今の世に生きゐる私も混ざりをり千数百点以上恐竜博物館

パタゴニアへはるばるはるばる行きしこと地の果てにして身近なり

いつまでも生きゐるつもり化石となりし恐竜に合はむ

曽孫

豊川　安藤和代

濃淡の緑もくもく弓張の山脈五月の空広げゆく

逝く春を惜しみているや伸びのびて蜂を遊ばす大根の花

生くるとは負けてはおれぬ野の道の蒲公英いっせいに綿毛旅立つ

窓からの入り来る風の心地よし久々友に絵手紙描かん

幼な日に父母と遊びし砥鹿宮の祭り花火が今鳴り響く

今一度父母と行きたし宮祭り金魚綿菓子風車の音

三ヶ月なる曽孫抱けばずっしりと喜びあふれて涙あふれて

この指で幸せつかめと三ヶ月の曽孫の両手しっかりにぎる

両ひざに曽孫の重さ残りいて幸せいっぱい今日が始まる

ランドセル背負う曽孫を見たいとて早寝早起き今日も二千歩

雨雲の暗くおおいしし庭隅にアマリリスの白清らかに咲く

腕が痛い腰が痛いと言いつつも幼馴みの電話は楽し

話す事ないと言いつつ友もまた孫の話でもう五十分

雨上りの弓張山脈清々し全身の血のサラサラ流るる

夕迫る木立に聞こゆ山鳩のくぐもる声よ明日は雨らし

母の日

豊川　山口千恵子

庭隅に植ゑたり柿の苗一本未だ芽吹かぬ時々見つつ

唱へみる桃栗三年柿八年わが植ゑし柿の木の側に

指先のアカギレやうやく治りそむ続くる雨に家こもりゐて

ランドセル背負はせ写真撮る親子桜の花びらはらはらと散る

人住まぬ隣家の庭に咲きてをり紅淡き牡丹の大輪

馬鈴薯の畝より一本扱ぎてみる白々出づる丸々小いも

草庭を耕し茄子苗五本植う大きな仕事したる思ひす

閉店の張り紙錆びたりシャッターに淋しき思ひ見て通る

素枯れたるシクラメンの鉢一つ閉店したる八百屋に買ひき

植垣にからみて咲けるテツセンの紫の花にしばし佇む

久々にミシンを出し縫はむとし糸通しに難渋してをり

母の日の娘よりのプレゼント顔にぬるオールインワンジェルクリーム

草花の寄せ植つひに枯れ始む春の日々早く過ぎ去りにけり

埋め置きしアボカドの種四つ遅早のありて芽生え来ぬ

水張田の上を翻り飛ぶ燕つひぞ見掛けず水無月の空

箱根

蒲郡　杉浦恵美子

箱根にて会いませんかと出し抜けに豪州ダンの妻ローズから

二年間無音に過ぎしこの一家夫婦が来るのか勢揃ひなの

小田原と箱根湯本と乗り継いで強羅に立てば一家七人

先づ長男四人の男子と順にハグ最後は可愛い末っ子ルーシー

ルーシーは両親兄たち外つ国のわたしまでもが待ちのぞみし子

次男坊二メートル余もあるといふ背伸びすれども肩に届かず

今何歳幾つに見えます茶目っ気は相変らずのダン五児の父

このダンが日本に居しは三十年前日本語滅多に話さぬ年月

されどダンと日本語介せし一年はこの再会に花開いてゐる

五児ともにすべて残しし野菜サラダ一手に担ふ母よローズは

子供らが五人も居ればダンまさに団体旅行の添乗員さん

七人の一家は統率取れてゐる部外者わたしは時々迷子

彼等との落ち合ひ序破急小田原の別れは軽く手を振りしのみ

はて我は箱根に半日居たものの何を見たやら何したのやら

ユーチューブ見過ぎの疲れ目治し方ユーチューブからポチッと検索

悩ましき

大阪　伊藤忠男

万博の主役は人にあらずしてアンドロイドが案内するなり

多様性目指すテーマも掛け声に終わるか世界きな臭きこと

環境と共生目指す万博の気高き主旨も空々し今

かの国の脅し文句に委縮するこれも力の力なるかな

常に問う人に背くか背かぬか工学目指す我への教え

ＡＩの画像なのかも悩ましきまさかこれとて有り得べきかも

ちょい手紙書くのもチャットＧＰＴ便利なれどもこれで良きかな

無機質の広くなり行くこの世こそ人の心の貴重なるかな

ＡＩの能力限り無きとても和歌の心に至らざるなり

青空に両手広げて深呼吸悩み吸い込みひと息をつく

そよ風が吹きて香は萌黄色春から夏へと移りゆくなり

藤棚の下をゆっくり初夏の道紫色が目に染みるなり

目を遠く移すその先藤の色立木鮮やか桐の花なり

花が散り青葉になりた庭の木でいちゃつくメジロ仲睦まじき

あれもこれ悩み尽きねど何もせず時の流れに任せるのみや

愉英雨（ゆえいゆ）

豊川　白井信昭

庭中の土留囲奥いつしかに黄水仙一つ隙間に立てり

今の週より市内各々（それぞれ）恒例の祭り始まる三月の暮れ

今日の日をスーパー回り妻と行く蒲郡バイパス行きに帰りに

佐脇浜桜広場を彩るはピンクに咲ける寒桜幾つ

荒（すさ）ぶ風花粉と黄砂かすむ空妻と出掛ける不織布マスクかけ

御堂山ヒメハルロード上りつつ山桜一つ今を盛りと

一本の太山（おお）桜崖の上花咲き満てり見上げつつ行く

御堂山に立つ雨霧の消えぬまま桜の移ろいにけり

黄砂舞う山並み見ゆる春景色白く散りばめ霞(かす)める桜

今日という清明の日の庭中に吹きくる風の心地よきかな

孫匠真今日という日の入学式両親伴い吉田方小学校

木香薔薇(ばら)角口花壇幾千の蕾つけながら一つ綻(ほころ)びぬ

バイパスの全通なれど親しみしＲ２３県道に変わる

一本の大紫躑躅(つつじ)囲の中蕾の幾つ膨み来たり

木香薔薇恵みの雨に幾千の薄黄の蕾いよよ満開か

傘持たぬ

埼玉　矢崎直人

傘持たぬその日に限り降らる雨さらさらさらと光をはねて

のしらんの裏の山へと続く道みちのしるべに群れて咲きをり

春の雨洗濯物が乾かずに濡れてく雨で急いでしまう

非常勤二年常勤一年目いまの職場ではじまる三年

はじめての当直勤務夜勤明け春の昼間の日射しの眩し

云うことを忘れたことを思い出す夜勤の夏のはじめの雨の

弱い時強い時とが人にあり自分にもあるいろんな時が

理念から経営戦略おかれたる利用者の暮らし支える目標

夏はじめ理念を想う雨の朝いかに個人の目標立てる

小手先でゆかぬ仕事の取組みをじっくり腰を据えて考え

仕事をも俳句と同じ生き方を型を活かしていかせるものか

風薫る五階Ｃ２駐車場忘れぬやうに歌に詠みゐる

もう少しもてとパソコンキーボード一回拭いて再起動して

上すべりする言の葉に違和感を感じてうまくいかないわけを

好きだけじゃやっていけない箱店主一定程度リターンなければ

『ことよせ』

西浦公民館　いーはとぶ

武蔵野へ北条五代を訪ねゆく一公二民の治政の果てを

水野絹子

人溢る列に並ぶは都人混ざりて向かふ博物館へ

まだ寒きロビーに溢るる受験生飛び立つ君ら府中は春へ

上野の国立博物館をはじめ、東京周辺を訪ねました。八王子城に行くと、いまだ慕われる早雲の影を見ました。

頼もしき大人になりぬ一人暮らす孫は津の地に下宿してをり

牧原規恵

静かなる日本最古のたたずまひ伊勢神宮の参道歩む

賑はへるおかげ横丁訪れり孫と娘はいつ戻るやら

伊勢神宮、遅い時間だったので参拝客も少なく、ゆったりした空間に浸りました。やはり古い物はいいな。

小児ガン援助の募金ありし店ほんの少しの助けになればと

お礼にとレモネードをば頂きぬ甘酸つぱきに小児を想ふ

万歩計外して歩く草の道好きなだけ歩く外暮の道

目標の数だけ歩かねばと、義務感に囚われて歩くのが嫌になる事も。気儘に歩いて心軽やか。

稲吉友江

フォルクローレ会場満たす響きなり遠きボリビアここに現る

チャランガがギターやケーナに響き合ふ会場今や遥かなる国

かの日友と聴きしコンドルを花祭りを名古屋栄の街角ライブ

蒲郡出身の木下尊惇さんグループのフォルクローレコンサート。今も耳許にラッタラッタラーラッタラララー

鈴木美耶子

侵略をされて三年ウクライナを会談は詰めよる大国の二人

いつまでも戦ひ続くは宗教か歴史に民族はたまた資源か

牧原正枝

おだやかに春は来たかと浜に出るアサリ解禁あさからの車

戦いのニュースが普通のように流され、慣れてしまいそうな日常です。今まわりの人との縁を大事にしたいです。

山火事は民家に至れど鎮火せず雨に頼るしか道はなきかな

煎餅を施設の母に持ちやればおいしいよとて我にもくるる

森厚子

けふ佳き日太極拳の免状受くカーネーションの花束添へられ

連日の山火事のニュースに慌てて庭の枯れ草等を片付けました。袋一杯で、やっと気持ちが落ち着きました。

大武智子

複数の事件が起きて絡みあふどこかで何かが繋がっている

バスマット天日に干して見上げたり我が家の上を旋回するヘリ

病院の待ち時間ながし何もせず誰とも話さず一時間過ぐ

卵巣ガンが脳に転移したのが発覚して半年が過ぎた。小さな幸福を感じる余裕が欲しいと切に願います。

現代学生百人一首

東洋大学

暗い道街灯の明かり道しるべ私もなりたい誰かの明かりに

近畿大学附属高等学校２年　**中山　渚々夏**

反抗期来たら何する母が問う少し考え「野菜を残す」

伊丹市立松崎中学校３年　**花輪　ひなの**

コロナ禍で大声出せずヒソヒソとしゃべる姿は小鳥のようだ

東洋大学附属姫路高等学校１年　**春木　翔伍**

視線落ち口にはマスク会話なく耳にはイヤホンまるで三猿

西宮市立西宮東高等学校１年　**永井　滉子**

二年半育てた髪がカツラへと姿を変えて闘う君へ

山陽学園高等学校３年　**井上　愛心**

音楽部最後の舞台コンクール緊張の先に見慣れた笑顔

福山市立松永中学校３年　**門田　七架**

パソコンと話し始めてはや一年カメラで人の目見るクセつける

阿南工業高等専門学校５年　**丸山　賢人**

蝉時雨ポニーテールのうなじ灼くコーラの瓶当て涼む午後二時

聖和女子学院高等学校１年　**前田　智花**

『俳句』

子の言葉あふれ出しをり初桜　植村公女
ジャングルジムの天辺にあり春の城
駄菓子屋に立ち止りをり春たのし

清明の陽ざしに映える緑かな　木村歩歩
鳥居過ぎ八幡宮へ桜道
雉啼いて仙石原は野焼き跡
庭に咲く紫蘭手折りて見舞い花
燕来て掛け声響く体育館

大正の九谷の碗に新茶かな　今泉如雲
坪庭に亀の置物著莪の花
武者人形ずらり箱階段の前

春の雨さらさらさらと日をはねて
のしらんや裏山続く道しるべ
春の雨洗濯物を急ぎいれ
夏はじめリネンを変える雨の朝
風薫る５階Ｃ２駐車場

矢崎直人

自の命委(ゆだ)ぬる春の陽に
太陽より８分20秒にして春陽の届き
今まさに過ぎゆかむとす今日の春
空を飛ぶペリカンもゐて春の海
砂浜に足跡続く春の海
黄金の蕾もまじる花菜漬
山椒の花の香りを振りかける

今泉由利

川口カルチャー受講者自作自詠俳句集

木風

桜咲き人の別れと雨と風
三月は姿を見せぬ富士を見る
春の風千里が浜に吾一人
散りてのちなんぞ朱に染む山桜
春嵐吹きに吹いたぞ空は青
衣替え隣はオレより居丈高

紀風

散歩道うすべに色に塗まりけり
桜見に混乱の車列入りけり
交番も留守電まかせ世の流
雪風や身にしみる朝日待つ

凩防しや人々つなぐ祭りかな
花見前枝の剪定あちこちで
散歩道桜の次はハナミズキ

つねこ

八分咲き一人花見を楽しめ
敷わらに陽射(ひざし)し匂(におい)や花苺
もう一度吟を聞きたし花の頃

郷泉

駅舎にてつばめ飛び交(か)いヒナ育つ
新緑の息吹吸い込み力満つ

春山

若葉にも子等の頬にも日の光
立夏かな蕎麦に列なす深大寺

折々の詩（十六）

ふじの けんじ

世界のどこかで

世界のどこかで
今日を必死に生きている人々がいる
理不尽な暴力を受けながら
心ない言葉に深い傷を負いながら

傷ついた魂でしか深まらない人生の意味がある
それは地面の下で根を伸ばしていく力になる

世界のどこかで
必死に闘っている人たち
やがて彼らの根が連なって
いつかこの世界に
希望を撒き続けるのだと
信じる

その根は決して枯れたりしない
未来から湧き出る水に潤いながら
一輪の花を咲かせるだろう

五感を澄ませば（36）

杉浦恵美子

九条武子

来年（令和８年）は昭和百年にあたるとか。つまり昭和の一世紀。政府は、この節目にあたり記念式典やイベントの予定があるとか。

昭和百年の内訳とは、昭和64年＋平成31年＋令和８年となります。この百年間に元号が三つ、もう西暦を介さないと計算不能です。

ネットで「西暦・和暦対照表」を発見。

令和＝西暦下３桁－０１８（レイワ）
平成＝西暦下２桁＋12
昭和＝西暦下２桁－25
大正＝西暦下２桁－11
明治＝西暦下２桁＋33

因みに我が両親は二人とも大正生まれ。生きていれば百歳を越えているのか、とその悠久さにしみじみ。

閑話休題。

昭和が64年も続いたのは例外的。その前の大正時代は僅か14年。しかし短いがゆえに大正文化の印象は却って鮮明な気もします。

大正三美人とは聞きますが明治あるいは昭和三美人などは調べても出てきませんし。

さて、前回大正三美人の一人、江木欣々について書きましたので、ここでは残りのうち九条武子について調べてみます。

彼女は、いわゆる瓜実顔の古典的美人。上品な切れ長の目は、江木欣々の挑むようなパッチリ目とは大きく異なり、残されたセピア色の写真からは、上流婦人のためか、近寄りがたい気品が感じられます。また驚くことに彼女の慈善活動の映像（昭和３）が現存。すらりと柳腰ながら気さくに子供を抱き上げている様子が映っています。

「美人薄命。明治・大正の時代を生きた九条武子は40歳で亡くなった。彼女が亡くなったとき、新聞は一面で彼女の訃報を伝え、悲しみのあまり自殺する青年までもいた。

武子が世間から女神のように慕われていたのは、美貌だけでなく慈愛に満ちた心の持ち主だったからだ。

明治20年、西本願寺第21代法主大谷光尊の次女として京都に生まれる。幼い頃からフランス語を習い、おやつの時間には、当時まだ珍しいシュークリームやチョコ

レートが並ぶ、現代でいうセレブの生活を送っていた。歌を佐佐木信綱に、絵を上村松園に学び、芸術的センスも磨かれていく。

明治42年、公爵家出身で正金銀行勤務の男爵九条良致（貞明皇后の異母弟）に嫁いだ。結婚の3ヶ月後、天文学を学びたいという良致と共に渡欧することになった。良致はそのままケンブリッジ大学に留学するために英国に残り、武子は1年後単身帰国した。

「3年したら帰る」と聞かされていた良致の留守は10年待っても帰ってくることはなかった。10年間の生活を牢獄にたとえて、武子が詠んだ歌

かりそめの別れとききておとなしううなづきし子は若かりしかな

『武子は弱音も漏らさず夫の帰りを信じて待ち続けた』という説もあれば『欧州へ旅立つ前からふたりは口もきかない夫婦仲だった』という説もあるが、後者の説が今も根強い。

大正9年、歌集『金鈴』を出版すると、一世を風靡、武子の人気に火がついた。丁度この頃夫が帰国した。突如夫が現れて非常に困惑したことだろう。『金鈴』収録歌

ゆきずりの人よりもなほ冷ややかに瞳かへして物のたまはず

しかしふたりは東京築地本願寺近くで新たな生活を始めた。

そんな矢先、大正12年関東大震災が襲う。

自身も被災しているにも拘らず、彼女のとった行動は困っている人達に手を差し伸べることだった。震災復興事業へ尽力したのだ。

昭和3年、奔走の無理がたたり敗血症を発症し40歳でこの世を去る。

多くの人を救い、幸せにしてきた武子だが、プライベートが果たして幸せだったかどうか定かではない。」

『和楽web』より

彼女の生母は父の側室、夫も英国滞在中現地女性との間に二子を儲けていたとも言われ、当時の上流階級にはよくある話とは言え、生まれた時から、外面のきらびやかさに反して内情はどろどろしていた人生を強いられたようで、なんだか切なくおもわれます。

気高さの内に秘めたる葛藤を見せぬ剛さよ九条武子は

附　録（三十六）

矢　崎　直　人

春の雨さらさらさらと日をはねて

いつも折り畳み傘を鞄に入れているのに、雨が降る時に限って傘を持っていなかったりします。そんな時に、まず雨を眺めてみます。傘をさすほど強くはなく、春の雨は、柔らかく光りを反射します。さらさらさらと音が聴こえてくるような雨を見つけました。

傘持たぬ日に限って降られる春の雨さらさらさらと光をはねて

のしらんや裏山続く道しるべ

紫の花が横を向くように野紫蘭の花が咲いていました。前に鎌倉を歩いた時に、この花の種が落ちていました。もう少し青が深くとても色が美しくて調べてみると野紫蘭の種でした。その後を辿って行く山を登って行く階段が

あって誘われるように行きました。
野紫蘭の花が咲くと思い出します。

のしらんの裏の山へと続く道みちのしるべに群れて咲きをり

風薫る5階C2駐車場

ショッピングモールに車で行くことがあります。大きいお店だと駐車場がとても大きいです。お店に入る入口と離れた所に駐車場があったりして、場所を忘れないか不安になります。そこで、駐車場の場所を詠み込んで俳句を詠んだり、短歌を詠んでいます。

風薫る五階C2駐車場忘れぬやうに歌に詠みゐる

『よそ見しながら老いの坂』

中屋保之

晩年に母が良く「畳の縁にでもつまずくようになったよ・・・」とボヤいていた。そんな歳に、わたしも近づいてきた。先日も下り階段で〝意図しない一段飛ばし〟をやってしまい、危うく転倒しかけた。まさに《転ばぬ先の杖》を痛感した瞬間でもある。ある日、朝食に野菜サラダを器に盛って、ミニトマトを添えようとヘタを捥いだ。ふと気づくと、ヘタを器に、実をシンクのごみ袋へ、自分でもビックリ！そこは独り暮らしの気楽さ、だれに視られたわけでもなく、思わず爆笑。

まだ寒い日が続いていた頃の事、タートルネックの服を、眼鏡を架けたまま着ようとして、眼鏡の破損寸前で思い止まったこともあった。

今年の花粉症には閉口した。前半（恐らくスギ花粉）は例年とおりの軽め症状であったが、四月に入ってから重症化した（恐らく高級材のヒノキだったのかも）。咽喉痛緩和用の飴を舐めようとして、着用していたマスクを外していないのに気づいて事なきを得た。

足腰の老化対策として〝片足立ちでズボンを履くとよい〟と聞いたので、なるべく実行するようにしている。最近、ふらついてなかなか上手くゆかないことが多くなってきている。思わず片方の裾に両足を、なんてこともたまに（ご。

。くタマにです、念のため！）。　更に、小用を足しにトイレに入ってアリャリャ、インナーのあるべきところに「窓」がない（男性ならお解かりいただけるでしょう！）。後ろ前を逆に履いてしまったのである。

事程左様に、青年&成年時には考えも及ばない現象を体験するような年齢となった、ということであろう。これはこれで〝初体験〟を笑い飛ばして楽しもうと決めた。砂糖と塩は間違えていない、今のところは。

《転ばぬ先の杖、転んでも杖》、ならば《転ばぬ為の知恵》を発揮するに越したことはない。《転んだあとの松葉杖》はごめんである。転ばぬよう躊躇なく手すりに縋る。他人に追い抜かれてもゆっくりゆっくり、お先にどうぞ。

優先席が空いていれば「座っていいですか?」と声を掛けて譲ってもらう。声を掛けられた若者は、大抵びっくりするが嫌な顔はしない。笑顔でお礼を言うと先方も笑顔になる。

三遊亭小遊三師匠は《寝ていて　転んだ試しなし》と謂う。それもそうだ。が、私は、《老いの坂　下りばかりじゃつまらない》の心持ちで、よそ見しながらゆっくりと老いの坂を辿って行きたいと思う。たまには上りもあるかもしれない。この先、どんな〝初体験〟が待っているのやら。

《酒は一合　ご飯は二膳　夜中に四、五回お手洗い》　内海桂子

『酔いの徒然』（一五八）　丸山酔宵子

『昭和１００年映画祭　山中貞雄と小津安二郎』

今年、令和7年は昭和１００年。

この記念すべき年に「昭和１００年映画祭　あの感動をもう一度」と銘打って、数寄屋橋交差点側の老舗映画館〝丸の内東映〟で、3月２８日から5月8日まで、「羅生門」「二十四の瞳」「無法松の一生」「影武者」「黒部の太陽」「蒲田行進曲」「八甲田山」など、映画会社の枠を超えて昭和の名作・ヒット作４２本を一挙堂々上映したのである。

百年の銀座の柳菜種梅雨

酔宵子

今回はいままで見逃した作品を中心に数作鑑賞したのだが、特に山中貞雄監督の幻の名作「丹下左膳餘話 百萬両の壺」は、評判に違わず、素晴らしい感動の作品であった。

１９３５（昭和１０）年公開の時代劇で、日活京都撮影所が山中貞雄を監督に指名し、丹下左膳役に大河内傳次郎で制作した。

百万両の隠し場所が塗り込められた「苦猿の壺」をめぐる丹下左膳と柳生一門との争奪戦に、左膳が用心棒として居候している矢場の女主人・櫛巻きお藤と孤児のちょび安が絡む、お洒落な時代劇コメデイである。

９０年前の映画とは思えないモダンで心地良いシナリオで、テンポの速さと場面展開は秀逸である。丹下左膳の大河内傳次郎の喜劇俳優としての才能を見事に引き出し、音楽もムソロングスキーの「禿山の一夜」などのクラシックを使い洗練度を増している。

山中貞雄監督はサイレント映画からトーキーへの移行期にあたる１９３０年代の日本映画を代表する監督の一人で、わずか5年間の監督キャリアで２６本の時代劇を発表したが、今日までフィルムがまとまった形で現存しているのは、同作品と「河内山宗俊」（１９３６年）と「人

情紙風船」（１９３７年）しかない。

『人情紙風船』完成直後に日中戦争に召集され、１９３８年中国開封市で、２８歳の若さで戦病死した。

山中貞雄は小津安二郎などの映画人との交流も深く、山中は小津の６歳下であったが、意気投合し、１９３８年１月中国戦地で再開し、楽しく語らった写真が残されている。

山中貞雄の菩提寺は京都の大雄寺にあり、そこには、小津安二郎筆の「山中貞雄之碑」がある。

今回の昭和１００周年記念での名作の中で、小津安二郎の「東京物語」も、改めてじっくり堪能した。「東京物語」はテレビをはじめ何度も何度も見たが、今回のリメイク４Ｋ版を丸の内東映の大画面での緻密な映像に改めて感動・感激したのである。

小津映画またも団扇か笠智衆

酔宵子

上京した両親を厄介者扱いする医者や美容院経営の子供たち。気落ちする老親を、一人温かくもてなす戦争で次男の息子を亡くした義理の娘。家族でも心の距離が遠くなる切なさと、血の繋がりを超えた純粋な真心・・・。その主役〝紀子〟を演じる原節子のあの健気なまなざしと艶やかな白肌。そして、ローアングルでの小津安二郎の無駄を省いた場面展開の素晴らしさ。

最後のエンドマークが出ると、劇場のあちこちから拍手が聞こえてきたのである。

山中貞雄も「内山宗俊」で原節子を抜擢し、丹下左膳でも小津安二郎と同じようなローアングルを駆使し、無駄を省き、余韻の深みを追求していたのである。

劇場を出ればネオンが霞む宵

酔宵子

百花繚乱　花を咲かそう

高橋育郎

花を咲かそう　サアもっともっと咲かそう
花は平和のシンボルだ
花咲くところに　戦争はない
花を咲かせて　その美しさを愛でよう
あの残虐無比な戦争を起こさないためにも
そう　花が無いところで戦争は起きる
花の力を信じて　その美しさを愛でよう
ああ　遠くから鐘の音が聞こえてくる
あれは国連平和の鐘よ　世界平和を祈っている
鐘の音に応えるかのように　花が咲いている
天に鐘の響き　地には花　その二つの力が
世界絶対平和をもたらすのだ
世界絶対平和を誓い　祈ろう

夕焼け空は　茜色

高橋育郎

夕焼け空は　茜色
カラスが　ねぐらにかえります
母さん呼ぶ声　「ごはんだよー」
おてて　つないで　かえりましょう
さよなら　サヨナラ　またあした

遠くで鐘が　鳴っている
鐘の響きは　平和だな
世界平和の　祈りの響き
守っていこう　この鐘を

戦争やめて　平和がいいな。
戦争しない　平和で行こう

絹の話（175）

「アトリエトレビ」今泉雅勝

絹と環境（そのⅡ）

早春の山菜

２０２５年の冬はビックリする様な暖かい日が周期的に何日も続きました。池や道の水溜りに氷が張らなくなって久しくなりますが、今年は寒いと言っても早朝の庭に弱々しい立氷が二度ほど張っただけで、私の人生でも初めての経験でした。フキノトウが例年より半月も早く出てきて、初物を食べましたが、早春ならではのほろ苦さがうすれ、スーパーで販売されている温室物と同じ様な味覚になってしまい落胆しました。

山菜が冬の寒さに耐えるために溜めた苦味を人が食べて、夏の暑さに耐える体が作られるのだと祖母から教わって来ましたが、その様な事は遠い昔の話になってしまいました。今では癖のないもの、柔らかい物が美味しいと言われる様になって来ましたが、昆虫は己の食性の葉の苦味などを上手く利用して生きているのに、それを利用しない人々の免疫力は衰えていないでしょうか。

蚕の来た道

蚕はおよそ1万年以上前、地球が温暖かした時、中国の中央部で桑の葉を食べるクワコが家畜化されて世界に広がった昆虫です。

蚕の一生は、卵から幼虫、さなぎ、成虫（蛾）と45日間でめまぐるしく変わる完全変態を持ち、幼虫の時に体を大きくする為に4回脱皮をするという生き方をしています。45日で生命が次に繋がって行くという事は蚕の一年は人間の時間軸からすれば50年～１００年位に相当し、僅かな時間（約40世代）で環境（温度、日照時間）に対応すべき種に進化できる生残り術を持っているという事です。

この虫は春の桑の葉を食べる為に日照時間と気温に対応して羽化する為の目覚まし時計を持っていて、他の虫が敬遠して食べない桑の葉を消化できる酵素を取得して桑の葉を独占的に食べる事が出来る様になりました。また蚕は桑の葉に含まれるカルチノイド、フラボノイド、タンニンなどを幼虫時から体や繭に取り込み紫外線や雑菌、食害から身を守っています。

蚕は桑の木が南へと繁茂して行くのに共生して行き、元来高温に弱い虫が、南（タイ方面）に移行した時は桑の葉のカロチノイドなどを多量に取り込み紫外線やや雑菌に対抗出来る濃黄色繭に変身しました。タイ方面は気

温が高く温帯地域の様に冬の寒さを避ける為に休眠の必要もなく、日照時間が長く桑の葉は通年繁茂しているので、多化性という年中無休で繭を作る蚕に変身を遂げました。逆に北上した蚕は桑の葉の繁茂期間が短いので年間２回繭作る二化性に留まりました。
（現在では人間が温度管理などして４回養蚕が可能になっています）

長寿は人類に何をもたらすか

多くの昆虫は小さく短命で子沢山の道を選び、少ない餌で素早く環境に適合して子孫を残す事を優先して、今日の大繁栄を謳歌しています。今後少々地球が温暖化されようとも十分適用して行けると思われます。

一方大型で長命な道を選んだ多くの哺乳類や爬虫類は少しの地球の気候の変化で食料の確保が左右され生存が脅かされています。長寿はＣＯ２の吸収が衰えた老木の様に種全体の躍動力を阻害し絶滅への道を辿っていないでしょうか。

人類でも食料が豊富にある時は人口が増加したものですが、現在の先進国はいずれも人口減少の方向にあります。今や人間は長寿で繁栄という未知の分野に進もうとしています。

サステイナビリテー（持続可能性）な社会を作れ！

現代の地球温暖化を阻止する為、世界の多くの企業が「ＧＸビジネス」（グリーントランスフォーメイション）に将来をかけて取り組むようになりました。

そこには１５０兆ドルのマーケット（現在の日本の国家予算の１８０年分）が広がっていると言われているからです。ＣＯ２関連ではＣＯ２の吸収力が大きくて利用価値の高い木が探されています。桑も検討されていて養蚕もその一部ですが、葉のみならず皮から根まで薬用などあらゆる方面から有効性が検討されています。

昆虫の知恵に勝る生存術を見出して頂きたいものです。

年を取っても若々しく働く人を作る

社会を老化させる事はその社会の滅亡に繋がります。日本の平均寿命は85歳になろうとしていますが、この人達がより若々しく元気に社会活動をする為の方策を作る事が大切です。その一策として親和性豊かな幸せホルモンや爽快ホルモンを出してくれる絹をＧＸビジネスが安く大量に作り、寝具や内装材に広く普及させる事が出来れば費用に勝る効果があると思われます。

「江上浩二の独り言」90

江 上 浩 二

私の夢、釉薬の世界

ほぼ12年前に笠間焼の釉薬を専門にやっている方を紹介していただき、学生以来、材料科学を専攻してはいたが、半導体デバイス関連の職につき、日本が世界の50％シェアを達成した時期で、日米間を始め日本対欧米諸国の貿易摩擦が起きました。そんな時期（１９８５年）に、まだ世界での市場がゼロだったインターネットインフラ関連の材料を取り扱う企業に転職し、20年程勤め、早期退職しました。そして趣味の世界ではありますが古くて新しい材料に注目した。

釉薬（上薬）の世界に科学を持ち込んだ偉人はドイツのゼーゲルである。

普通、ものを混ぜる、液体に何かを入れて溶かす時など、重さで計って、パンを焼く時には薄力粉を１００ｇに強力粉を３００ｇ混ぜるというように、目先の簡便でやりやすい方法が間違いはないし、好まれる。水溶液でも、水1リットル（約1kg）に砂糖を50ｇを溶かしこんでも、甘い液が得られる。これが重量換算の混ぜ方である。

しかし、このような観点では焼き物の釉薬を再現性良く、失敗なく、行うには不十分とゼーゲルは考えた。少し、化学を齧った人ではモル数換算の混合を知っておられるであろう。ゼーゲルはモル数換算の混合法を釉薬の原材料混合に取り入れたのである。

モル数換算の混合を知らないという一般の方向けに、お話しすると、例えば、モル数換算の混合とは、化学の反応を前提とした混ぜ方と思って頂きたい。

水の分子式はH2O、これは水素原子2個と酸素原子1個が反応して形成されたのが水という事になる。無駄なく反応させる為には水素2モルと酸素1モルを混合させるという事になる。ちょっと不思議というか、解らないと思うが、どうやって水素1モルや酸素1モルを計るのかという問題に遭遇してしまう。このモル計量については、次回に取り上げたい。

何故、釉薬の世界にモル数換算の混合を取り入れなければならないと、ゼーゲルは考えたのかというと、釉薬はガラスに他ならず、カラスの複数の主要成分が混じり合い、反応して、綺麗なガラスができるのである。

釉薬の主成分である〝ガラス〟材料については4種類あります。

ROと表記されるアルカリ性（塩基性）イオン酸化物と

シリカ成分（SiO2）、

アルミナ成分（Al2O3）と

着色、発色させる僅かな金属酸化物である。

これらの4成分を混ぜるのであるが、着色材は量的に少なく、鼻薬的にまぜるので、ゼーゲルの科学的モル数混合からは除外します。

したがって、きちんとモル数混合の対象になるのは、RO、SiO2、Al2O3の3成分です。

ROは一般表記なので、具体的な材料としてはNa2O（ソーダ）、K2O（カリ）、CaO（石灰、酸化カルシウム）、MgO（マグネシア、酸化マグネシウム）、BaO、ZnO、PbO、Li2O、

SrO などになります。

先ず、混ぜる前に、釉薬のガラス化主要3成分の機能についてお話しします。

RO はガラスを柔らかくさせ、溶ける作用があります。

シリカ成分は多いほどカラスを固く、強くします。ガラス化温度も高くなります。

アルミナ成分は結晶化を防ぎ、清澄性の維持、粘り気を持たせます。

ゼーゲルが教えてくれた釉薬を調合するゼーゲル式は、再現性が良く、科学的に釉薬の発色、材料としてのガラス化などを安定にさせてくれますが、繰り返しますが、材料を重量％でなく、モル％で調合する事が必要です。

ざっと、彼が示したモル％は釉薬の各成分では以下のような値にする事が必要であると説明しています。

アルカリ性イオン酸化物（RO）の総計を　1モルと固定します。

シリカ成分（SiO2）　1－7モルの範囲とします。

アルミナ成分（Al2O3）　0・1－1・0モルの範囲とします。

それらに、着色、発色させる金属酸化物を混合します。以上が、ゼーゲルの鼻薬の呪い的調合式の概要説明です。

〈難関アボガドロ数〉　人の感覚として、水1ccの重さが1g、水の化学式、H2O を考えます。モルという考えには分子量という基準を取り入れます。先ず水素の分子量は1、酸素の分子量は16です。化学式に従って、1×2＋16と計算し、合計が18となります。これにgを付けて、水18gで水の分子が1モル数含まれているという話とします。では眼の前の水が18g、18ccには水の分子 H2O がどの位含まれているかというと、約6・0×10の23乗個含まれるという話です。この6・0×10の23乗個というのが分子1モル分で全てに共通なものです。これを化学の世界ではアボガドロ数といます。古くからその分野を研究された、Mr.アボガドロ（イタリア：1776－1856年）に因んで名付けられています。

実際、釉薬の調合には裏にあるゼーゲル式に基づいた成分割合を、各粘土、釉薬の基材について成分分析を行って、重量％で混ぜる表記にしておきます。これが便利です。

厄介な問題とはモル数を如何にして重量％に換算するか、各粘土、釉薬の基材について成分分析を予め行っておくことが必要だという事です。昔の陶工は経験で全てを行っていたわけですから、凄いと言わざるをえません。私はそれを行列式で容易に解く事にしました。

究極は釉薬で窯変天目と言われ、なぜか日本に3碗残っており、国宝になっている。私も研究し、コンサルタント的に多くの陶芸家が挑戦し得られた情報を分析して、得られたバーチャル像を作りました。それは、行列式で釉薬の安定なガラス化に関わる重要問題が関係していると推定でき、混合させるだけの計算式で、普通に考えるとあり得ない負の値（マイナス）になることで、暫く自分なりに考えていましたが、マイナスはすなわちガラスでない微結晶が析出し、それが薄い板状になる。それは釉薬の世界で所謂金属発色ではない、回折原理で色が見えるというバーチャル像でした。窯変天目は光が当たらないと真っ黒ですが、光を当てると水色で何とも言えない色でその中にやや大きな丸く色付いた星が点在しているような味わいの世界です。

初狩便り（43）

花野みぷり

夏草

太陽の光を一身に浴び、梅雨の暖かい雨を受けて、勢いよく伸び、青々と茂るあらゆる草のことを、季語では「夏草」というが、私たち農夫にとっては、雑草だ。紅い実のエゾヘビイチゴ、紫色の小花のミソカクシなど、一つひとつを見れば、かわいく、美しいが、集団となると、強健で、やっかいで手に負えなくなることもある。

雑草とは「望まれていないところに生えているすべての草」とNHKの「チコちゃん」で言っていたがぴったりの説明だった。

一方、夏草は、『万葉集』や『古今和歌集』にも登場し、それ以降の俳句や短歌にも多く登場している。時代を問わず、私たちの暮らしの周辺では変わらず植物が芽生え、夏が訪れるごとに、その若々しい生命力に魅せられてきた。夏草には、強く、たくましく、したたかだけでなく、はかなく、切なく、哀しさもあると芭蕉は詠んだ。

「夏草や兵共（つわものども）がゆめの跡」

この句が好きだ。

（写真　菅野昌英）

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言
https://hondachiro.exblog.jp/

2025年4月16日

ヒノキ花粉も多いですが

昨日の夕方の空には綺麗な虹が2本かかり
茜色とあいまって　とても幻想的でした
不安定な空模様は
普段にはない空模様になりやすいので
夕暮れ時の空が楽しみになります
今の時期　ヒノキ花粉が多く飛んでいます
本田カイロにいらっしゃる患者さんが
「先生　今年はかなり花粉が楽で
ヒノキも　ほぼほぼ大丈夫です」
と嬉しい報告をしてくださいました
アレルギーの施術ですが
今年はあえて　10割の施術はしてなく
6割くらいにしていました（新しい施術です）
黄砂がイレギュラーに飛んでこなければ・・・
と悔やまれますが
それまでは　比較的　皆さん安定していました
体内にたまりすぎている方は
10割の施術を入れています
調子の良い方は　私の施術だけでなく
本田のひとり言　を読んで下さり
3S+ゆたぽん+ヨーグルト+八分+湯船　を
やって下さっているおかげです　ありがとうございます
これからも　免疫力を上げて
身体の流れを滞らせず　健康寿命を延ばし
楽しい日々をすごせたらと思います
今日も笑いながら楽しんで行きましょう

2025年5月2日

良い気候

日中は暑く　朝晩は涼しいという
季節の変わり目だから　身体に負担がかかりますが
これが夏であれば　かなり良い気候ですよね
こんな夏なら良いですね笑
気がつけば5月です
明日からゴールデンウィークという方も多いと思います
長期の休みになると
暴飲暴食しやすくなります
休みなので　もちろん良いと思いますただ
◎良く噛んで食べる
ということを意識して食べましょう
移動が多かったり　座りっぱなしが増えます
◎30分～1時間に1回立つようにしましょう
3S＋ゆたぽん＋ヨーグルト＋八分＋湯船も引き続き意識しながら
楽しいゴールデンウィークをおすごしください
今日も笑いながら楽しんで行きましょう

康鍼治療院（www.yasuhari.com）

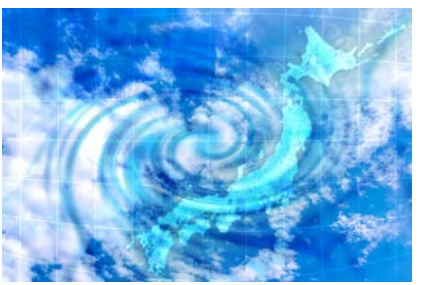
玄　翁

「気圧の低さの影響を」

梅雨時期　どんより雲多く
しとしと雨が　降り続き
天の気　気圧は低下して
人の身体（からだ）や心にも
大きな影響　及ぼすなり

気圧が低くなる時は
身体に対する圧が減り
血管・淋巴（リンパ）は拡張し
血液・体液　めぐりが弱り
身体の機能は　停滞す
手足のめぐりが　悪ければ
手足は重く　怠くなり
水分停滞　浮腫となり
身体を動かすこと自体
億劫　だらだら気が乗らぬ
頭のめぐりが悪ければ
脳の血管　拡張し
耳奥・三半規管など
脳内　浮腫んで圧増えて
様々機能が乱れてく
自律神経・内分泌
調節機能が不調となり
頭はボーッと　霧かかり
時に痛んで　頭痛して
気持ちは塞がり　鬱になる

気圧が低い　天気の時は
自ら圧を増やすべく
適度に運動・下半身
動かし　筋圧強めたり
お風呂に肩までゆっくり浸かり
水圧によりて　圧増やしゃ
身体はめぐりを　取り戻し
浮腫や怠さを　回避して
頭もスッキリ　取り戻す



「人生陰陽　アップダウン」

人生山あり谷ありで
山を登るは　陽となり
谷へ降るは　陰となる
上がれば　下がり
下がれば　上がる
これぞ陰陽の法則じゃ

楽しく充実　満たされて
完全燃焼　やりとげりゃ
気分は　陽へと上昇し
気持ちが高まり　極まれば
その後必ず　虚となりて
凹んで　気持ちは落ちていき
冷静な自分へと立ち返る

嫌な事や　悪い事
物事　うまくいかぬ時
気持ちは　陰へと落ちていき
落ちた気持ちも　底までいけば
これではまずいと　切り替わり
内面変化し　先見出し
成長・変化の　一歩となる

平地で山無し　谷無しじゃ
幸も不幸も　感じることなく
人生陰陽　不活発
人生の起伏を　作るべく
時には　壁が立ちはだかり
時には　谷底落とされて
陰陽　流れが促される

山と谷がある事で
人生陰陽が　流れてく
上がりっぱなしは　あり得なく
下がりっぱなしも　あり得ない
流れの上下の勢いに
乗っかりゃ　楽に動き出し
生きていくのが楽になる

相模支部と花木園に遊ぶ　殿山木風

風和らぎ花麗しく　水流れて清し
寛静の庭園　晩春に明らかなり
朋友高吟して　各　趣を深うす
良し塵俗を離れて　人生を楽しまん

與相模支部遊花木園　令和七年四月二十七日

風和花麗水流清　寛静庭園晩春明
朋友高吟各深趣　良離塵俗樂人生

（語釈） o寛静…ゆるやかで静か。o朋友…同門を朋、同士を友という。o塵俗…俗世間。

（通釈） 風は和らぎ花々は咲き池の水は清く流れ、静かでゆるやかな花木園は晩春となった今その良さが明らかになった。

相模支部の面々は高らかに吟じあい情趣を深くしている。たまにはこうやって通常の生活から離れて人生を楽しむのも良いものだ。

※　横浜鶴見区馬場町に花木園なる入場無料の庭園がある。インターネットで検索すると「豊かな緑に囲まれた、和風の風致公園です。茶室があり、お茶会や俳句・和楽器の演奏などに利用されています。池を中心とした園内には、竹林があるほか、山野草やサクラ、ハス、ウメ、モミジなど四季折々の花々と風情を楽しむことができます。」と案内されている。

弊流の相模支部からこの茶室での一吟会に誘われた。何せ私の家が参加者の誰よりも近いのだ。横山家に入り間もなく、無き義父から朝の散歩で案内され一緒に散策したこともある。一人で気晴らしに来たら良いよと勧められた事を思い出す。ここは皆さんと一味異なる思いがある。庭園とは良いものだ。池が良い。木々の緑が良い。花は咲いていれば何でも良い。皆さんは緊張感の中に真剣に吟ずる姿が良い。斯く言う私は最後「雨ニモマケズ」を吟じたが、途中間違ってしまった。気分が悪い。私事だが、問題は吟ずる迄のルーティーンと場所が違った時の目線と集中だ。意識してやるだけだ。プレッシャーも緊張感も結構！その中で生きる。

晩春を愛しむや吟の花木園

Retreading a journey made in my youth, and before that as a babe in arms, it was a homecoming.

The cycles in my personal history helped my contemplate other connections across time and space, aesthetically and philosophically, the ways in which we are linked through legend, linked in humanity. Our ideas, our loves, our lives fertilized by these stories.

Memory, I pray, will suffice to remove obstacles to another return.
May it be elephantine!

Circles of Time

Atiya Hussain

Somehow, this April, it was time for me to circle back to Tokyo. Some 25 years after my last visit, it was not too late for the late cherry blossoms.

In a city aflutter with pink and white, this tree in Hamarikyu Gardens captured spring's exuberance, steadying me from what nearly was a surfeit of petals.

時の輪廻

なぜかこの 4 月、私は再び東京へと巡り戻ってきました。
前回の訪問からおよそ 25 年、遅咲きの桜にはまだ間に合いました。

ピンクと白が舞うこの街で、浜離宮恩賜庭園の一本の木が春の歓喜を象徴していました。
花びらの奔流に酔いそうになった私の心を、その木が静かに支えてくれたのです。

若き日に歩いた旅路を、そして幼子として抱かれて訪れたその道を、再び辿ることは、
私にとって帰郷のようでした。

自分自身の歴史に繰り返される円環をなぞるうちに、
私は時と空間を越えて結ばれる他のつながりについて考えるようになりました。
美学的にも、哲学的にも――
私たちは伝説を通して結ばれ、人としてもつながっているのだと。

私たちの思想も、愛も、生も――
それらは物語によって養われているのです。

記憶が、次なる帰還への障壁を取り除いてくれますように。

願わくば、その記憶が象のように力強くありますように。

編集室だより【二〇二五年六月】

今泉由利

歌集「地球にて」

富士山の見ゆる窓硝子に息かけて曇り残さず拭いてをりぬ
今日よりは住人となる港区の地図を買いたり霙降る日に
朝夕に富士山見ゆる窓があり高輪四丁目私の住い
富士山の見ゆる所に住み始めアルゼンチンの話題が多し
夕焼を映して淡き色のあり白新しきわが父の歌碑
鉢植の苺は熟れる目高泳ぐやうやく住居らしくなりたり
幼子と始める日本の暮しには先ず十尾の目高が泳ぐ
一日の損したるごとく過ぎてゆく今日一日見えぬ富士山
話しいだす言葉を探す癖つきぬ日本語も一度暗唱してみる
日本語を使い海鼠にて日本の酒を飲み合うひとときのあり
三ヶ月過ぎたるはやも思い出なりブェノスアイレス清し麗し
遠きこと遥かはるかの間ののちに南極よりの電話は深夜
起伏ある電波の波長を感じつつ南極よりの声はま近し
列になり飛びゆく鳥の列を乱す一羽のことを思いておりぬ
世界地図に探すはサンドイッチ諸島その島に行きし人あれば
今は夏南極基地のスタンプの押されし絵葉書三通届きぬ
私に見ゆる景色のことごとく桜咲きおり日本にいて
傾きし光りの中を降るごとし淡き花弁追いかけ追いかけ
やわやわと重なりやさしき八重桜その木の下はゆっくりとゆく
ヨットにて世界一周に行く人も交えて地球を飛びめぐる話
日本にいて亜国（アルゼンチン）の味を探しアルゼンチンにては日本探しき
看板の漢字の意味の読み取れて熱き日差しの香港の町
出揃いし白樺の葉の丸まりて幼き虫の育まれゆく
匂う日も匂わぬ日もあり家近く一畝ばかりの韮畑あり

蕺草もびんぼう葛も差別せず指さし教う我が幼子に

満員の日本の電車の乗り方がチリーの人との今日の話題

今誰も居らぬ私の九階の窓を見上げて山の手線より

オンブーの実を踏みゆけばオンブーの香り立ちたりアルゼンチンの国

トロントにて道を問われる私もたちまちカナダを通り過ぐる人

フランス語中国語またポルトガル語私によくわかるのは日本語

わずかなる震度といえども見のがさず私の壁のエッチング斜め

きらきらと輝く物質を含みつつ太古の羊歯は石となりおり

年輪の確かにありて石と残る一億八千万年前のブラジルの樹は

鳴き方が下手ねと幼等話しおり東京品川油蝉一匹

酸漿も数珠玉もある一角を通りゆきたり地図を頼りに

流れくる汗をふきつつゆく道はおしろい花の咲き始め時刻(どき)

昼餉とてすこしばかりを食む時に雪いただかぬ富士に向えり

鬼蜻蛉(やんま)二匹よぎりてゆきしこと九階の窓の今日の出来事

あれこれと思い惑いてようやくに今飲む物は熱々の白湯(さゆ)

見定めて跳びつき折りたるその枝に色付き始めの次郎柿二つ

日本が黄色くなったと驚ける幼子と三島のあたりをゆきぬ

柿の木の下に柿の葉散り積りその複雑なる色を踏みゆく

逆光の中に単色の富士見えて私の部屋に灯りともさず

露しとどアルミサッシの窓を拭き漸く富士の山見ゆる朝

銀座まで十五分程の所に住みただ暮れてゆく日本の日々

野菜等買いにゆくにも会釈して高山神社の近くに住めり

その昔は海なりと言わるる位置にいて海の見えない私の窓

一輪の白椿ありて九階の私の部屋に尺取虫這う

物皆が濡れて明けゆく雨の窓まろまろ辛夷の花がまず白

緑へと色移りたるクリスマスローズ見えざる姉にその花をいう

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所　〒一五〇‐〇〇一三
東京都渋谷区恵比寿三‐四五‐三
フォーレストヒルズ三〇二
ケイタイ　〇九〇‐八四三四‐八六四六
ＴＥＬ　〇三‐六七六五‐五八三八

◇ＵＲＬ　http://imaizumiyuri.jp/
E-mail　imayurizm@gmail.com

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇どなたも参加、投稿いただけます。
三河アララギ編集室　今泉由利　までご相談ください。

◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。

◇会費制は廃止。

◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。

◇令和七年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。

◇編集・発行　今泉由利